

2014年12月25日

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

1. おもてなしサービスを実現する手段としてのICT

- 競技場WiFi、デジタルサイネージ、8K映像などは、競技観戦をよりわかりやすく、より面白くするためにこそ利用したい。（手段よりも目的）
- そのためにコンテンツ、アプリケーションの工夫が求められている。

2. 大会ムーブメントを盛り上げるICT

- ウェアラブルなモーションセンサー、アスリートのパフォーマンスを可視化するビッグデータ解析技術・AR技術、マイナー競技を盛り上げるSNSなど、スポーツ関係者に注目されるICTの使い方を、日本からも発信したい。

3. レガシーとして次世代に受け継ぐICT

- 大会での実績をもとに、単体の技術でなくソリューション・パッケージとして世界に通用する（展開できる）“何か”を残せないか。

本懇談会への期待

- 組織委員会は、大会運営（あるいはスポーツ文化）の観点で“2020年にありたい姿”について検討・実現するのがミッションだと認識しています。
- 本会では、日本社会全体の観点（観光立国、少子高齢化なども含め）でも“2020年のありたい姿”を仮定し、“そのためにICTがどうあるべきか”を議論して頂きたい。